

2019年度 第3回

高校受験公開模試

中学2年 国語

—試験時間40分・100点満点—

- ・まずははじめに、解答用紙に受験番号・会場・種別・氏名を書きなさい。
(種別は、あてはまる方を○でかこみなさい。)
- ・答えは、解答用紙に書きなさい。
- ・質問があるときは、だまつて手をあげなさい。

高校受験公開模試 国語 — 40分 —

※解答する上で字数の指定がある場合は、「」「。」やかぎかつなどの記号も一字に数えます。

1 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(1) 君の意見には承服できない。

(2) 晩秋の奈良を旅する。

(3) あの人功績は大きい。

(4) 水が二階からぼたぼたと外れる。

(5) 病院で健康ホケンシヨウを提示する。

(6) 悪い習慣をカイゼンする。

(7) ショウガイブツ競走に出場する。

(8) 国王にハンギをひるがえす。

2 次の各問い合わせなさい。

・次の(1)・(2)のことわざの意味として最も適当なものをあとのア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) ぬれ手で粟 あわ

ア 何の苦労もせず利益を得る。 イ 目的のために最大限の努力をする。

ウ 他人のために危険を犯す。 エ どこまでも自分の利益を追求する。

(2) 李下に冠りんかんを正さず

ア 他人の身なりを批判してはならない。 イ 目上の人を敬う気持ちを失ってはならない。

ウ 人に疑われる行動をしてはならない。 エ 出過ぎた行動をしてはならない。

・次の(3)・(4)の文は、いくつの文節からできていますか。それぞれ漢数字で答えなさい。

(3) 朝から降っていた冷たい雨も、夕方にはもうやんでしまった。

(4) あのきれいな小鳥は、いつたいどこへ飛んでいったのだろうか。

・次の(5)・(6)の——線部と同じ品詞の単語をあとの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(5) 春分の日も過ぎて、めつきり暖かくなってきた。
東京駅とうきょうえきで母おやしを送り、それから、銀座ぎんざで買い物をした。

ア いいえ イ 考える ウ 静かだ エ 美しい オ なぜ
カ しかし キ ばかり ク 夏祭り ケ られる コ あらゆる

次の文章を読んで、あととの問いに答えなさい。

卒業式では泣くまいと決めていた。

詩織も出席させてもらえるとはいって、この直原高校で三年間頑張ってきた生徒たちのための式なのだ。一年ほど働いただけの自分がもらい泣きというのも申し訳ないし、大人としてみつともない気もする。顔見知りの卒業生たちと会った時だけ、笑顔でお祝いしよう——などと考えていた。

式の最中にはどうにか堪えていた。だけど、司書室に戻つて一息ついたら、不意打ちみたいに来客があつた。

「詩織さん！」

茅島楓ちゃんだった。涙の跡がある笑顔で図書室に入つてきて、まつすぐ司書室に向かつてくる。

「卒業おめでとう！」

につこりと笑つて告げた。だけど途端に楓ちゃんの目が潤みはじめた。

「ありがと。……いろいろ、お世話になりました」

ペこりと頭を下げられた。その頭を撫でてやると、楓ちゃんは頭をもたせかけるように身を預けてくる。言葉にならない涙声で何か言われた。それにうなずきながら、詩織まで泣きそうになった。

どうもこういう涙というのは伝染するものらしい。卒業式の最中にも、どうして泣かせるような音楽とか挨拶とかが続くのだろうと思っていたが、式が終わつて一対一で向き合うというのも格別だ。

そう思つたが、胸が詰まつて言葉が出てこない。何か言つたら自分も泣いてしまいそうなのが分かる。——なんとか持ちこたえられたのは、続いてもう一人の卒業生が現れたおかげだつた。

「おー、やっぱりここにいた」

笑いを含んだ声は瀬井初のものだつた。楓ちゃんを捜してここに来たらしい。

「なによー、いちや悪い？」

楓ちゃんは手早く涙を拭つてゐる。素つ気ないのは照れ隠しだろうか。

「悪かないって」

瀬井くんは慣れた調子で受け流した。詩織に笑顔で会釈して、穏やかに楓ちゃんに話しかける。

「さつき演劇部の後輩たちが花束くれてさ。そん時に小枝から伝言あずかつたんだ。後で読書会のメンバーで記

念写真を撮らせてもらえませんかってさ」

「ああ、うん。撮る撮る！」楓ちゃんは即答した。「A 詩織さんも一緒に撮ろうよ」

読書会のメンバーというのは、多分この二人に小枝歩乃佳と大隈広里を交えた四人のことだろう。図書委員有志で始まつた読書会は様々な組み合わせで何度も開かれたが、最初に集まつた四人の間には独特の絆が生まれているようだ。

その四人の集合写真に詩織も入れてもらえるとは光榮だつた。そういうえば学校司書になつて以来、生徒と一緒に記念写真なんて撮つたことがなかつた。

校内では携帯電話やスマートフォンの電源を切ること、というのが直原高校の校則である。職員としては撮影をしている生徒がいたら注意しなくてはならない立場だが、卒業式の今日は特別というお達しがあつた。今日で学校を去る卒業生が他の生徒や教職員と記念写真を撮ることくらい大目に見ようという粹な計らいである。だから詩織も安心して写れるし、自分も撮つておきたいなと思えた。

「で、どこで撮る？」楓ちゃんが言つた。「小枝ちゃんはどこにいるの？」

「オーダマを呼びに行つて。どうせ写真部の部室だろうつてことで」瀬井くんが答えた。「で、どうせ楓はここだらうつてことで、司書室前集合つて言つといたよ」

「さつすがー。分かつてね」

楓ちゃんが瀬井くんをつづいている。涙の気配も過ぎ去つて、B 詩織はほつと息をついた。

やがて小枝姉と大隈くんもやつてきた。写真部の大隈くんは立派なカメラと三脚を担いでいて、スマートフォ

ン用の接続器具まで持参してくれた。

カウンターや書架を背景に、何枚もの写真を撮った。交代しながらシャッターを押したりセルフタイマーを使つたり、楽しい時間が過ぎていく。

詩織はなるべく控えめに、なるべく生徒たちの写真を撮る側に回ろうと思つていたのだが、途中で瀬井くんが45声を上げた。

「そういえば——高良さんって、去年の三月にこの図書館に来たんだよね？」

「そうだよ。三月は仮採用みたいな臨時職員で、四月から本格勤務つて感じだつたから」

「じゃあさ、俺と楓の卒業記念だけじゃなくて、高良さんの一周年の記念写真も撮つとこうよ」

「あら、ありがとうございます」

(①) 気の回る少年であつた。カウンターに詩織を座らせ、みんなでそれを囲む構団を決めて、大隈くんに50カメラの^{注1}アングルを指示している。

「じや、いきますよー」

セルフタイマーを押した大隈くんが、小走りで自分の位置へと走つてくる。シャッターを待つ間、詩織はもう一度「ありがとうございます」と口にした。

声が写真に写るわけもないのだけれど、今の気持ちを言葉にしておきたかったのだ。

みんなが解散した後、楓ちゃんはもう一度図書室に現れた。

「これ、渡し忘れたから」

そう言つて手渡してくれたのは葉書くらいの大きさの封筒だつた。若葉色の封筒がやわらかく膨らんでいて、赤いカエデ色のシールでとじられている。

どうやら、二人になつた時に渡してくれるつもりだつたらしい。さつきは記念写真でそのタイミングがとれなかつたのだろう。(②) 戻つてきてくれるのが彼女しかつた。

「詩織さんにプレゼント。卒業の置き土産つて言おうと思つてたけど、一周年記念でちょうどいいね」

開けてみてと言われ、封筒のシールを剥がした。中から出できたのはカエデ柄の布地だつた。なめらかで心地いい手触りの^{注2}生成りの布に、若葉から紅葉まで色とりどりの葉が描かれている。端が縫つてあるのが見えて、出してみるとブックカバーなのが分かつた。

(こないだ市立図書館の企画で、古布で文庫本カバーを作ろうつてのがあつたの。ほら、葉の紐もついてるんだよ)

「すごい。いいの？」

「いいのいいの。小さい頃に着てて破れた浴衣の生地から、いくつも作ったやつだし」

「それじや、遠慮なく。ほんと、ありがとうございます」

お礼を言いながら、さつきから「ありがとうございます」ばかり言つてはいるなど気づいた。「おめでとう」と言うつもりが、卒業生からよくしてもらつてばかりだ。

C 手にしたブックカバーから、あたたかな思いがじんわりと伝わつてくる。楓ちゃんがそういう思いを抱いてくれたのが、一年間働いてきた成果みたいに思えた。

初めて会つた日、楓ちゃんがカエデの葉の葉を見せてくれたのを思い出した。あれは前任の永田さんからのプレゼントだったけれど、自分は楓ちゃんに何か贈^{おく}ことができたのだろうか。もらってばかりでは申し訳ない気がした。

「お礼にもならないけど……楓ちゃんにだけ話しちゃおうかな」

声をひそめた。前にもこうやって、楓ちゃんと秘密を共有したものだ。

「内緒だけど、実は私も、この春から大学生になるの」

「ほんとに!」楓ちゃんは目を丸くした。「じや、ここのお仕事は?」

「学校司書も続けるよ。お仕事しながら、通信制の大学で司書の資格を目指そうと思つてるの」

つい先日、東京で通信制のための入学説明会が開かれて、その場で入学金や授業料を支払ってきた。正式には四月期からの入学という扱いだが、既にテキストも届いて、学生に戻った気分で自宅学習に励んでいる。そのあたりのことを大雑把に説明した。資格がとれなかつたら恥ずかしいので極力人には話さないつもりだったが、楓ちゃんは特別だ。

(竹内真「図書室のピーナツ」による)

注1 アングル＝角度。

注2 生成りの布＝染色・漂白していない布。

(1) (一①)・(二②)にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、各記号は一回しか使えません。

ア わざわざ イ おいおい ウ まじまじ エ つくづく

(2) 線A 「詩織さんも一緒に撮ろうよ」とありますが、このときの詩織の心情の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 直原高校では学校職員が卒業式の日に校内で記念写真を撮ることが認められており、自分が卒業生と一緒に写真を撮つても他の先生に注意されないので、安心する気持ち。

イ 卒業式を終えた読書会のメンバーたちが、最後に自分がいる図書室に集まって記念写真を撮ろうとしていることを光栄に思う気持ち。

ウ 読書会に参加する中で独特の絆を育んできた楓たちと一緒に、初めて写真を撮ることができて誇らしく思う気持ち。

エ 図書室に用事があつて来たにもかかわらず、それを後回しにして自分との思い出を作ろうとしている楓の好意をありがたく思う気持ち。

(3) 線B 「詩織はほつと息をついた」とありますが、このときの詩織の心情の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 楓が涙を拭つて瀬井と話を始めたので、楓に泣き止んでもらうために何か言わなければならないというプレッシャーから解放されて安心する気持ち。

イ 楓に流されて自分も泣き出してしまったが、記念撮影をするために読書会のメンバーが来ると聞いて、感傷的な雰囲気が薄れて泣かずにすんだので安心する気持ち。

ウ 瀬井と小枝が自分を気遣つて明るくふるまうことで、二人との別れがさびしくならずにすみそうだと予感し、安心する気持ち。

エ 自分との別れを惜しんで泣き出していた楓にどう接すればいいかわからず困惑していたが、瀬井が楓を落ち着かせてくれたので安心する気持ち。

(4) 線C 「手にしたブックカバーから、あたたかな思いがじんわりと伝わってくる」とありますが、このときの詩織の心情の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 楓が自分に親しみを感じてくれたことへの感謝と、一年間働いた充実感を覚えている。

イ 前任の永田先生のように、自分も生徒たちと信頼関係を築けたことに満足している。

ウ 自分も大学生になることを楓に打ち明け、勉強に取り組む決意を固めている。

エ 学校司書として一年間働いた実感がわき、嬉しさがこみ上げている。

(5) 本文中には次の三文が省略されています。この三文が入る場所の直後の一文を本文中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

思えば、楓ちゃんは詩織の勤務初日にやって来てくれた。図書室の常連だという彼女は何かと仕事を手伝つてくれたし、慣れない詩織にいろいろ教えてくれました。お礼を言わなくてはならないのは自分の方だ。

次の文章を読んで、あととの問いに答えなさい。

これまでに私が聞いてきた専門家の意見の中でとくに印象的だったのは、「**A**プログラミング」という行為そのものが変遷する可能性がある」という予測でした。分かりやすく言い換えれば、人工知能がプログラミングまで行なつてしまい、IT化の最前線にいたプログラマーという職業さえ、これからは人工知能にその座を取つて代わられてしまうということです。

もちろん、基幹的、先端的、芸術的な一部のプログラムは、将来的にも人間のプログラマーが書くことになると思われますが、それはエース級の人材の仕事です。平均的なプログラマーの仕事は、さほど遠くない時期になるとくなるのかもしれません。

そうした事態が実現するとなると、人工知能の原理や働きを知るためのプログラミング教育は依然として必要だとしても、「どのプログラミング言語を学ぶか」といった実用目的の選択はもはや意味がなくなります。

逆に、プログラムの背後にある論理的で科学的な思考をきちんと学ぶ必要がよりたかまるわけで、同時に、小学生なら国語や算数や理科、中高生なら国語や数学や物理といった基礎科目、さらには哲学や芸術、スポーツといつた、まさに人間としての基礎教養こそがますます重要になるはずです。

ここ数年、人工知能へのマスコミの注目度も高くなる一方なので、関連する**A**シンポジウムや**B**ラウンドテーブルなどが数多く開かれるようになり、私もその司会や進行役を頼まれることが頻繁になりました。これまでも、人工知能には大きな関心を寄せてきたつもりですが、そういう場に参加すると、実用化目前の新技術などの知識はもちろん、その将来的な未来像についてもより深く知る機会が増え、驚かされることばかりです。

こうした専門家による**A**プレゼンを聴いている中でも、実用化が近い話としてとくに興味をひかれたのは、スカイプ通話（ネット回線を通じた通話サービス）における「リアルタイムの同時通訳機能」が日本語にも対応するという話でした。（①）、日・米間でスカイプを通じた社内会議をする場合に、あちらは英語でしゃべり、こちらは日本語でしゃべっても、ふつうに議論ができてしまうのです。

「じゃあ、これから日本人は必死に英語を勉強しなくてもよくなるのですか？」と司会である私がプレゼンターの米国人に質問すると、同じことを感じた人も多かったようで会場が沸きます。プレゼンターは気負いもなく、「**B**」と英語で答えたのですが、これがまさに人間の同時通訳者を介して日本語で来場者に伝えられたので、会場はなんとも言えない妙な笑いに包まれました。

しかし、人工知能もまだまだ万能ではありません。将来の話として、専門家の話で逆に安心させられたのは、「人工知能は、これから3年から5年で有名大学の入試にも受かるような知能は獲得しますが、小学校3年程度の『常識』でも、これを獲得するまでにはあと10年以上はかかるでしょう」

という予想でした。似たようなことはこれまでも言わせてきましたが、人工知能の性能向上が著しいだけに、人間にとつて簡単なことが人工知能にとって必ずしも簡単とは限らないことが、かえつて今まで以上に浮き彫りになってきたのです。

人間の行動や思考を人工知能に覚えさせるには、そこから一定のパターンが抽出できなければなりません。しかし、常識というものには相当な幅があるのです。現に、皆さんも日々の生活の中で、自分が常識と思っていたことが他人にはそうではなかつたり、またその逆のこともあつたりして、常識というものがじつにあいまいなものであることをしばしば経験しているはずです。

私たち人間は、日常のもつとも基礎的な常識である挨拶ひとつにしても、相手、場所、時間、天気などのちょつとした**A**シチュエーションの差異によつてこれを巧みに使い分けています。

もっとも、最近の人工知能は画像認識技術とあいまつて、周囲の環境や目前の人物が誰であるなどは、すでに人間以上に正確に認識できるですから、道で行き逢つた相手が右隣の家に住む老婦人で、手に買い物袋をさげていることも素早く認識し、「コンニチハ。今日モオ元氣デスネ。オ買イ物デスカ？」と愛想よく挨拶するくらいいは朝飯前で、夜に向かいに住む小学生に会えば、「コンバンハ」の代わりに「アンマリ遅クマデ遊ンデイテハイ

ケマセント」としたしなめることだつてできそうです。

でも、左隣の家の幼稚園児ようちえんじが朝から玄関先で転んで声を上げていたとして、ロボットが「オハヨウ」ではなく「ダイジョウブ」と声をかけて手を差し伸べられるのか、はたまた大した転び方ではないと把握はあくして、「ソレクライデ泣なみだイチヤダメ」と元気づけられるのか、さらには、じつは転んだではなく地面に這はいつくばつてアリの行進ながれ眺めてはしゃいでいるだけだと気づけるのか……。こうした状況判断じょうきょうかんとて、時間さえあればもはや不可能ではなくなつていくのかもしませんが、ロボットにとつて急速にハードルが高くなつていくことはご想像のとおりです。

結局、常識とはいわゆる「暗黙知あんもくち」なので、人間的な経験を積むこと以外ではこれを鍛えにくく、(②)、論理的には非常に遠い関係にある概念がいねんを人間は感性でいとも簡単に結び付けてしまうので、高性能の人工知能でもまだなかなか追いつけないのであります。

これを理解するには、頭脳明晰とうのうめいで知識も非常に豊富なのに、社会経験が足りなかつたり発想が硬かたかつたりするため、「空気が読めない」といわれてしまふ人を思い浮かべてください、と言えば実感してもらえるでしょうか。(③)、それでもいつしか人工知能は、人間の持つ知恵ちえや知識、そして常識などの本質まで解明かしていきながら、人間の知能を超えてしまうのでしょうか。この注5ターニングポイントを専門家たちは「シンギュラリティー」と呼んでいます。ありていに言えば、「人工知能が人類全体より頭が良くなる」ことで、C我々われわれが知において人工知能から置いてきぼりを食らう状況じょうけうが到来することを指します。

日本語では「技術的特異点」と訳されますが、「特異点」とは数学や物理学の専門用語としては「法則などが適合しなくなる点」のこと。「予測不可能」とか「計算不可能」になつてしまふその境目を指します。そして、人工知能が予測不可能になるとは、人類全体の知力を超えてしまつたがために、もはや人工知能が出す答えの意味を人間側が理解できない領域に入つてしまい、人工知能が勝手に成長していくてしまうということです。

もつとも、ある専門家によれば、シンギュラリティーに達するための道筋が必ずしも明確に見えているわけではなく、人工知能の伸びしろが無限である保証があるわけでもないので、なんらかの理由で人工知能の発達に限界がきて、特異点には到達しない可能性じゅうぶんもあるのだそうです。

つまり、人工知能の研究も、単純な右肩みぎかた上がりで開発が進むはずはなく、前章でみてきたように、さらなる注6パラダイム・シフトや注7ブレークスルーが必要とされるはずで、まだまだ分かっていないことも多い、というものが事実なのです。

実際、現在は人工知能研究の「第3次ブーム」と言われていますが、それはすでに2回、人工知能の研究が大きな壁かべにぶち当たつてブームが終息してしまつた過去があるということです。

とはいえ、意思や欲望を持たない人工知能に人間の代わりがそつくりそのまま出来るのかという点は置くとしても、知識やそれを使いこなす思考力という意味においての「知能」で人間が追い越こされることは、やはり時間の問題になつているようです。多くの専門家が、その時期をだいたい30年後から50年後の範囲内はんいで予測して「2045年問題」などとも称しょうされていますが、そのとき人類社会は劇的な変化を経験することになるのでしょう。

(竹内たけうち薰かおる「文系のための理数センス養成講座」による)

注1 シンポジウムちようしうの前で特定の問題について数人が意見を述べ、その後に聴衆と質疑応答を行ふ形の討論会。

注2 ラウンドテーブルこうかん意見交換や議論のために、同等の関係者が集まつて行う会議。

注3 プレゼンこうかんプレゼンテーション。聴衆に情報を提示し、理解を得ようとするための手段・方法。

注4 シチュエーションきょうぶ立場、状態、境遇。

注5 ターニングポイントかく転換期、変わり目。

注6 パラダイム・シフトかくある時代や集團を支配する考え方、革命的・劇的に変化すること。

注7 ブレークスルーかく行き詰まりの状態を開拓すること。

(1) () () () にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、各記号は一回しか使えません。

ア それとも イ たとえば ウ しかし エ しかも

(2) — 線A 「プログラミングという行為そのものが変遷する可能性がある」とありますが、どういうことですか。その内容の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 人工知能の原理や働きを知るためのプログラミングの教育まで、人工知能が自ら行なうようになる可能性があること。

イ プログラムの背後にある論理的で科学的な思考、基礎科目、基礎教養を、人工知能が人間に教えるようになる可能性があること。

ウ 基幹的、先端的、芸術的な一部のプログラミングを、人工知能がエース級の人材と協力して行なうようになる可能性があること。

エ 基幹的、先端的、芸術的な一部のプログラムを除いて、人間がプログラミングを行なう場面が少なくなる可能性があること。

(3) □B にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア おそらく学校で英語を学ぶ必要はなくなりますよ
イ 残念ですが、英語を話せない人は仕事を失います
ウ 少なくとも同時通訳の仕事はなくなるでしょうね
エ 日本の人々は学ぶことがよほど嫌いなようです

(4) — 線C 「我々が知において人工知能から置いてきぼりを食らう状況」とあります、その状況を説明した次の文の()にあてはまる言葉を本文中から十八字で抜き出し、最初の七字を答えなさい。

・人工知能の出す答えが人間にはわからなくなり、()という状況。

(5) この文章の内容にあてはまるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人工知能が人間の知能を追い越したとしても、人間が人工知能の能力を使いこなすことができないため、それほど大きな変化を社会にもたらすことはないと考えられている。
イ 人工知能の研究は、今までも右肩上がりで順調に進んできたわけではないので、将来的に人工知能が人間の持つ知恵や知識、常識などの本質までを解き明かしていくとは考えにくい。
ウ 人間は経験を積むことで、相手、場所、時間、天気などのシチュエーションの差異を判断して、挨拶を巧みに使い分けることができるようになる。

エ 人工知能の専門家はシンギュラリティーに至るまでの道筋が明確に見えており、「2045年問題」と称される、人類社会の劇的な変化が人工知能によつて起こされると予測している。

次の文章を読んで、あととの問いに答えなさい。

今昔、中納言藤原の忠輔と云ふ人ありけり。この人常に仰ぎて空を見る様にてのみありければ、世の人、これを仰ぎ中納言とぞ注1付たりける。

しかるに、その人の、注2右中弁にて注3殿上人にありける時に、小一条の左大将済時と云ける人、注4内に参り給へりけるに、この右中弁に会ぬ。大将、右中弁の仰ぎたるを見て、戯て、只今には何事か侍るとA云はれければ、右中弁かく云はれて、少注5攀縁發ければ、只今天には注6大将を犯す星なむ現じたると答へければ、注7大將頗る半無く思はれけれども、B戯なれば否腹立注8して、苦咲て止にけり。その後、大将幾く程を経ずして失給ひけり。されば、Cこの戯の言の為るにや、とぞ右中弁思ひ合せけり。

注8人の命を失ふ事は、皆前世の報とは云ながら、由無からむ戯言云ふべからず。かく思ひ合する事もあれば也。注9（「今昔物語集」による）

注1付たりける||あだ名をつけた。

注2右中弁||朝廷の機関である太政官の職。

注3殿上人||宮殿に上がる)とを許された人。

注4内||宮中。

注5攀縁||憤慨。

注6大将を犯す星||大将に危害が加わることを予兆する星。

注7半無く||不快に。

注8人の命を失ふ事は、皆前世の報とは云ながら||人の命を失うことは、みな前世の報いとは言いながら。

(1) 線A「云はれければ」とありますが、その動作主として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 中納言藤原の忠輔
イ 世の人
ウ 小一条の左大将済時

エ 天皇

(2) 線B「戯なれば否腹立注8して」とありますが、その現代語訳として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア もしも冗談事じょうだんごとであるならば、腹も立てたず
イ もともとは冗談事であるので、腹も立てられず
ウ 必ずしも冗談事ではないが、腹の立ちようもなく
エ いささかの冗談事であるとはいえ、腹を大いに立て

(3) 線C「この戯の言」とありますが、具体的にどのような言葉ですか。本文中から十七字で抜き出し、最初と最後の四字を答えなさい。

(4) 本文で筆者が最も言いたいことは、どのようなことですか。その説明としてあてはまるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言つたことがそのとおりになることがあるので、くだらない冗談はつつしむべきだといふこと。
イ つまらない冗談は人を傷つけることがあるので、親しい友人にしか言つてはならないといふこと。
ウ 人はいつ命を落とすかわからないので、くだらない冗談に時間を割くのは無駄だということ。
エ 人が命を突然失うこともあるので、毎日悔いのないように過ごすことが大切だということ。

高校受験公開模試 2019年度 第3回

-中2国語-

受験番号	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	会場		種別	一般員 （ ）	氏名
	(数字の書き方) うすい線をなぞるように書いてください												

※受験番号欄にクラス・番号を記入。会場・種別は無記入。(中3 2番の記入例→M3-2)

The diagram illustrates the arrangement of 19 rectangular boxes, labeled 1 through 8 and A through E, organized into four main vertical columns:

- Column 1 (Left):** Contains boxes (1) through (5).
- Column 2 (Center):** Contains boxes (6) through (10). Box (9) is labeled "文節" (Bunseki) and box (10) is also labeled "文節" (Bunseki).
- Column 3 (Right):** Contains boxes (11) through (15).
- Column 4 (Far Right):** Contains boxes (16) through (19).

5

(4)

(3)

(2)

(1)

(5)

(4)

(3)

(2)

(1)

(2)

(1)

5

(2)

(1)

(3)

(2)

(1)

(4)

(3)

(2)

(1)

(2)

(3)

(4)

4